



〈サロン・あべの〉7月の出会い

平成18年7月15日(土)午後1時~4時、育徳コミュニティセンターで

〈サロン・あべの〉は、7月の出会い「はあとぴあー王子書店の心をのせて」のタイトルで、王子書店の店長・上田宏子さんにお話を伺いました。上田さんは、王子書店を営みながら別棟で子ども対象の「おはなし会」や大人向けの「読書会」などのサロン活動を続けてこられました。

・はじめに

今の王子書店のスタッフは、



はあとぴあ
—王子書店の心をのせて—

社長の夫とパートさん2人です。

夫と二人で本屋を始めて45年、開業当初は阿倍野区内でも屈指の商店街で、商店街の大繁昌時代でした。住

み込みの女店

員2人と配達

のアルバイト

も2人いたと

きもありまし

た。忙しい合

間に、娘2人

には毎晩絵本

を読み聞かせ、

下の娘が4年

生になるまで

続けました。

居眠りして同

じところを2

回も読んだりして、子どもに注意されたのは今は懐かしい思い出です。

昭和時代の高度成長期にさし

かかり、新幹線が東京ー大阪間を

4時間で走るようになり、東京

オリンピックには世界各国から

大勢の人が集まり、日本の戦後

復興を見てもらったわけです。

競技では、わが国は外国にひけ

をとらない好成績を挙げたもの

でした。その一方、本の業界で

は、生活の向上に伴い夢や潤い

をもたらす内容の豪華な雑誌が

刊行され始め、それらは毎月売

れ行きが伸びていきました。海

外旅行も気軽に出かけられる時

代になりました。

そうこうするうちに、道路沿

いにコンビニが開業して、週刊

誌、月刊誌などが並べられると、

私の店の売り上げがそちらへと

られていきました。この現象は

今なお進行中で心痛む悩みのひ

とつです。さらに、大店法規制緩

和で、大きい商業施設が駅前や

スーパーの周辺に建ち並ぶよう

になると、お客さんの流れが大
型店の方へと変わり、商店街は、
ますます閑散となつていきます。
このままではいけない！と、気
付いた頃には、ターミナル周辺
に千坪もあるような大型書店が
複数開業しました。そこは、王子
書店から2キロ先にあります。

・活動のきっかけ

売れ筋の本は、大型店ばかり
に配本されて、今日の新聞広告
やTVで紹介されるような書籍
はその日に入荷しないあり様で
す。その上、昨今では多くの人が
図書館を利用するようになりま
した。八方ふさがりで行き詰つ
ているところへ、出版文化産業
振興財団主催の「読書アドバイ
ザー養成講座」が始まり、その5
期生は大阪で受講できることを
知りました。思案顔の夫を説得
して参加し、「JPIC読書アド

バイザー」
となりまし
た。丁度そ
の時期か
ら、サロン
をはじめ
7年になり
ます。サロ
ンを「はあ
とびあ王
子」と名づ
けました。
本屋の店舗
とは別棟の
1階8畳ほ
どのスペー
スを開放し
ました。こ
こで月1回
程度、おは
なし会、読
書会、お茶
の会、ピー
ズ手芸、パ

はあとびあ王子の催事いろいろ

はあとびあ王子では「おはなし会」「読書会」「お香遊び」「あそび塾・ピース」「パソコン教室」など定例のもの以外にも、不定期にいろいろな催しをしています。

年月	内 容	参加人数
96年 8月	ブックリメイク 講師・吉野彰幸氏 王子神社洋間	8名
97年 5月	安曇野ちひろ美術館 松本由里子氏（長野館副館長）同席	12名
98年 3月	「赤毛のアン生活事典」などの著作のあるテリー神川さん（カナダ在住）を囲んでお茶と質疑応答 お茶会	12名
98年 5月	「白桜忌」与謝野晶子命日法要お参り 堺市覚応寺 「梅栄堂」お香席 午前・午後とも参加	16名
99年 4月	しまなみ海道ウォーク 往路空便 帰路新幹線 徒歩 観光バス	6名
99年 9月	京町家・奈良屋杉本家（「絵本平家物語」作者=杉本秀太郎氏宅）にて中国民族音楽ライブ	11名
99年11月	文学ツアー 奥琵琶湖観音めぐり 井上靖「星と祭」	12名
00年 7月	高山智津子先生講演会 王子神社参集殿	58名
01年 8月	著者を講師に読書会 「熟年行動派・ヨーロッパ片言の旅」狭間秀夫氏	15名
02年 2月	司馬遼太郎記念館 東大阪市	33名
02年 3月	子どもゆめ基金助成による「やっぱり 本っていいね」	35名 40名 12名
	* 午前 こんな絵本ができたよ！ 手作り絵本発表 ベルタ学習室	
	* 午後 おはなし会 王子神社参集殿 読書会 テーマ本「世界がもし100人の村だったら」	
02年10月	田辺聖子・渡辺淳一氏講演会（文藝春秋80周年記念） サンケイホール	11名
04年 4月	伊賀上野城 「週刊名城をゆく」にちなむ 三重県伊賀市	28名
05年 2月	「大阪ことばで遊ぶ会」 阿倍野区のO氏を講師におねがいで	18名
	奥本大三郎氏講演会 集英社「ファール昆虫記」 テイジンホール	
	式田和子氏講演会 主婦の友社 南御堂会館	
00年 3月	講談社全国訪問おはなし隊 1周目	約50名
05年 9月	講談社全国訪問おはなし隊 2・3・4周目	約50名

ソコン教室を催しています。それぞれの講座には専任の担当される方がおられます。私は、大方全部の講座に参加して、お茶を出して、皆さんとおしゃべりし、

楽しいひとときを持つことができてうれしいのは、当然のことですが、やはり本当の意図はサロンへ参加する人達が商店街を歩いてほしいからです。買い物をしてくれたら、なお、うれしいです。週刊誌や時刻表などコンビニやスーパーで買わずに、う



すばらしい本との出会いは、
あなたの世界を大きく広げ
ます。と、上田さん

ちの本屋で買ってくれたらもつとうれしいです。ほんの少しでも、商店街のお店に経済効果があればうれしいと考えて、サロンを開きました。

また、私の読書会のやり方は、テーマの本が決まると、人数分の本を図書館から借りてきて、みなさんにお配りして読んできてもらって、その感想を語り合うというものです。購入希望の方のためには、店内に用意できる作品何冊か仕入れておきます。なんといつでも一番難しいのは、テーマ本の選書です。本といつても、例えば、小説にも、恋愛もの、歴史もの、古今東西のものなど多種多様です。まず、参加者の意見を聞き、

なるべく時流に沿ったものをとの考えから、図書館司書にも聞いてたりしてヒントにします。読書会はいつとも1時間以上延長になります。なぜなら、どのような本るときでも必ず「今の世の中は…」

とかいう方向に話が盛り上がるからです。

「すばらしい本との出会いは、あなたの世界を大きく広げます。めがねを新調してでも活字を一層愛してください。どんな範囲のゆうの本でもいつも新しい発見があり、考える範囲や活動の場がふえて退屈など吹っ飛びますよ」と私は言いたいです。

やるべきことをきっちりとしてサ
ービスする本屋でありたい。商店街の中の本屋の役割ってなんだろう。どんなスタンスでいればお役にたてるのか。そこが知りたい。それが今の私の心境です。

お話の後、参加者に感想や意見をききました。

本のカバーに関心を持っていて。とはいえ我流で作った私の本とお見せいただいた本とは完

成度が違います。

「赤毛のアン」との出会いが自分を勇気づけられた。

はあとぴあの活動を考え、企画するのはどうしているのか。
―本屋を通じて声かけをしたり、広告を出したり、お客さんに教えてもらうことが多い。

本を通じて人と出会い自分のやることに協力してくれる。

（サロン・あべの）7月の出会いは、商店街に人々が集まってきてほしい。という思いから、こつこつ活動を続けておられる上田宏子さんのお話でした。

（参加者22名 山村貴司）

訂正：241号1頁、正しくは「み・らいず」代表河内崇典です。訂正します。

■はあとびあ王子「お香遊び」

私が「はあとびあ王子」を知ったのは、あべのポランティア・ビューローで活動をされていたポランティアさんが、「はあとびあで、お香を楽しんでいる。いすとテーブルだから遊びに来て…」とお誘いを受けた時でした。その方は、ポランティア・ビューロー室で（当時は育徳園の1階に開所していました）、お香を聴かせてくださったのです。それまでは、「お香」というものを全く知りませんでしたし、王子商店街の本屋さんで場所を提供されていることも知りませんでした。お誘いを受けて早速出かけました。3種のお香を順番に聴いて、次に香りの順番を変えて聴き、その順番を自分の考えて小さな色紙に筆で書いてゆきます。答えは巻紙に筆で書き、参加者の答えと合ませます。最後にその時のお香にちなんだ歌が添えられます。お香のかおりも甘い、辛い、酸味などいろいろとあります。順番に聴いている

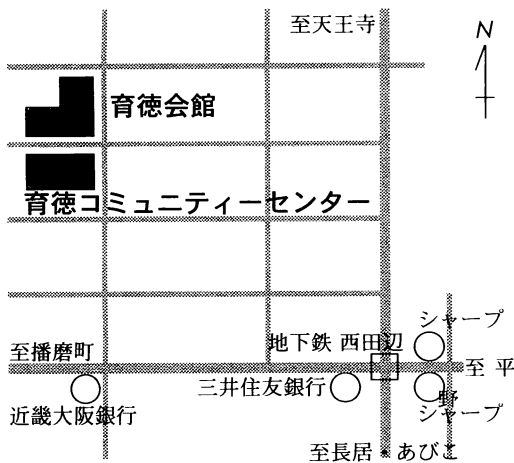
時は、なるほどと分かっている順番を変えて回つてくると、1番目のものか2番目だったかが分からなくなってしまう。頭の中で右往左往しながら書いてしまいます。が、時には当てることもありその時には、胸の底から芳しい香りを楽しませていただきました。お香は香りだけでなく、季節の花や小物が飾られ、それにまつわる歌や場所の話聞かせていただきました。小さな世界でありながら、そこから広がるお話は千年の歴史が物語る無限の世界が近代まで続いている感じがしました。知らないことが多い私でしたので、

参加させていただくだけで身も心も満ち足りた思いがありました。最近時間的に行きにくくなりましたが、毎月送ってくださいる「はあとびあ王子情報」紙は楽しみに拝見しています。この情報チラシには、お香遊びの他に「ピース手芸のあそび塾」や児童対象の「おはなし会」、大人向けの「読書会」、「パソコン教室」など、その月開催の科目が載っています。それに伴って「お勧め本」のご案内も掲載されており、今時の本の流れも知ることが出来る優れものです。ちなみに7月の「お香遊び」は、「常夏香」でした。（富田慶子）

お知らせ

<サロン・あべの>9月の出会い

日時…9月16日（土）午後1時～4時
 内容…サロンいたみ
 ～特別養護老人ホームと地域との
 コミュニティー～
 お客さま…安藤れい子さん
 （すみれ会「サロンいたみ」代表）
 場所…育徳コミュニティセンター2階
 研修室（スロープ・車いすトイレ有）
 大阪市阿倍野区阪南町5-15-28
 TEL. 06-6621-1901
 最寄り駅=地下鉄御堂筋線「西田辺」
 赤バス「育徳会館」下車すぐ
 会費…なし
 問い合わせ先…
 TEL 06-6691-1028（富田慶子）



赤松 昭

「谷間」に 「ごだわり」続けて

27

「若者と家族の会の歩み(最終回)」

専門家のアドバイスもあり、申請書類は案外スムーズに審査をパス。4カ月の縦覧期間を経て3月末には大阪府の認証が下りました。そして4月3日に法務局に登記。ここ初めてたぐNPO法人が誕生しました。法人名は「特定非営利活動法人大阪脳損傷者サポートセンター」。大阪市浪速区に事務所をかまえ、そこに会のメンバーが交替で詰めるという体制が整いました。

しかし、法務局に登記しただけでは、まだ紙の上の出来事ではありません。私たちは、このセンターの設立を広く知ってもら

ために6月4日、法人設立記念講演会を開催しました。高次脳機能障害の支援で全国的に知られている数名の関係者を読んで、「地域で支える高次脳機能障害のある人の暮らし」というテーマで講演会とシンポジウムを企画。治療の段階を終えた当事者の人たちの暮らしを、地域のネットワークがどう支えているのかに焦点をあてました。当日は200名近い参加者が集まり、私たちの法人はいよいよ本格的に活動を開始することになりました。

ここでひとつ、誤解のないように申し上げます。それはNPOが出来たからといって、若者と家族の会が亡くなったということではありません。任意団体の「若者と家族の会」とNPO法人の「大阪脳損傷者サポートセンター」が並立していることです。つまり、会員間の交流と精神的なサポートを主とする任意団体の良さを残しながら、当事者によるホームヘルプ等の事業を機動的に展開をできる法人を合わせた複層構造なのです。2年あまりにわたって交わされてきた組織論は、いわば「ハイブリッド型組織」という形に落ち着いたわけです。

ただ、NPO法人が出来たからといって、何か急に変わるものではありません。自立支援法の制定による負担増、リハビリテー

ションの回数限定、それから重度障害者の尊厳死をもくろむ法律制定の動きさえ出てきており、私たちを取り巻く状況は厳しくなる一方です。ただ、そうした問題にひとりひとり立ち向かっていては波に翻弄されるだけです。新しいNPOはこの波に立ち向かう船だと思えます。この先どんな船旅がまっているか分かりませんが、脳損傷者支援という大きな波紋を地域にたてながら、この船は進んでいくでしょう。

(おわり)

ありがとうございました。

カンパ、お菓子・写真・バザー用品の寄贈、また、サロングッズのお買い上げなど、ありがとうございました。

カスターネット、セルフ社、安達尚子、

有野千代、網谷保子、石橋幸子、上田宏子、

岡賀寿子、奥田久子、風智恵子、蔵田均、

黒羽玲子、小西京子、阪口広、下村実幸、

杉山蔦枝、高尾澄男、高橋幸子、竹村定子、

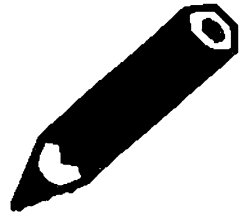
谷川久子、出口正敏、手島八重子、中村久子、

西和子、野村嘉寿子、平岡太、丸山寿美子、

八木千代、倭栄司、山本洋子、吉原和郎、

その他の方々。(敬称略)

30



邦子、 ..ん歳の手習い。

障害者の自立生活と障害者自立支援法

障害者の生活を大きく変えていく障害者自立支援法が今年4月から始まりました。障害当事者にとっては、今までのサービスが使えなくなり、現在の生活が維持できないのではないかとという不安な毎日なのではないでしょうか。しかし、すでに利用者負担の強化が始まり、障害程度区分調査が進められており、審査会、程度区分判定を経て、10月には支給決定され、新しいサービ

ス体系に移行していくということで、障害当事者にとっては、切実な問題です。

私も障害者自立支援法についてのセミナーを聞きに行ったりしていますが、制度や細かい基準など難しく、理解しにくいで

す。障害者自立支援法については、「サロン・あべの」紙で岸田美智子さんが、当事者の立場から毎回詳しく紹介してくださっています。先月号の「美智子のこんな話」を読んで、自立生活を先導的に実践してこられた岸田さんの生活をも介護の面から脅かしているということが直に伝わってくる感じがしました。

先日聞きに行ったセミナーでは、障害程度区分と支給判定が一度決定されると、それを変更するのはなかなか難しく、決定が出される前に十分に自分の障害について、特記事項の中で訴えていくことが大切だということが強調されていました。障害者自立支援法については、岸田さんのお話のように、障害者の生活にとってマイナスの部分しか聞こえてきませんが、今、障害当事

者は、複雑な新制度について理解を深めるため、勉強し、やっと築き上げてきた地域の自立生活を守るために頑張っています。

DPI(障害者インターナショナル)日本会議事務局長の尾上浩二さんは、『自立支援法』が根本的にもっている問題点をふまえた時、一からつくり直すくらいの見直しが必要に求められる。そのことを前提にしつつ、当面、10月からの支給決定や地域生活事業の実施に当たって、各自治体に対して『サービス低下、地域生活後退』を許さない取り組みを進めていこう」と呼びかけ、DPIの地域生活をあきらめない運動の方向性について語っています。

1970年代、青い芝の会の運動を中心に進めていった故横塚晃一さんは、大阪青い芝の会設立にも尽力し、障害当事者運動に影響を与えました。彼は障害者運動における当事者運動の大切さを次のように語っています。「生活保護をとることは世間体が悪いと気にする親があっても、それは

当たり前なんだということをつきつけて自分自身でとっていかねばならない。誰かにやってももらったり、やってもらうのを期待して待つのではなく、個人でやろうとしなければならぬ(1972年、「さようならCP」名古屋上映会の討論会より)。

現在、障害者自立支援法が、一部実施され始めている中で、「それでも地域で暮らしたい！」(堺市でのセミナーのテーマ)、「西宮が好きだからここで死ぬまで暮らしたい……(中略)……ふつうの家に住み、ふつうに買い物に行き、ふつうに笑って、ふつうに泣いて、ふつうに暮らしたい」(重度肢体不自由者通所施設「青葉園」通所者)という障害者の声があります。そのような中で、横塚さんのいう障害当事者運動の大切さが思い起こされます。障害者の願いを実現するために、専門家だけに先導されるのではなく、専門家とも協力しながら進めていく、障害者主体の運動が、今、求められているのではないかと思いました。

(定藤邦子)

今更言うまでもないが、どんな人でも名前が付いている。この名前は、生まれて初めての両親からのプレゼントである。最も友人や占師などに名付け親になってもらっている人もいるが……。

御存知の人もおると思うが、名前の名という字は次のような意味から出来ている。昔は今と違って電灯も外灯もあまり普及していなかったの、夕方になると急に暗く感じられた。そんな中でいつも子供たちは家の近くの広場で遊んでいた。すると必ずお母さんが、「〇〇ちゃん、ごはんですよ」と呼びに来てくれる。子供たちはお母さんの呼ぶ声を聞くと、どんなに遊んでいてもさっと止め、2人で帰って行くのである。このように薄暗くなると、誰だか分からなくなる。

だから夕方(夕)になると、お母さんが「〇〇ちゃん」と呼(口)んで我が子を確認することから、夕と口が組み合わさって「名」という字が出来たと言われている。

ところで誰でも名前を呼ばれたら「はい」と返事をするが、この「はい」という語源はこうである。社寺に参って神仏を拝むことを参拝といい、遥か遠くから拝むことを遥拝という。このように返事の「はい」というのは参拝や遥拝の「拜」に由来するそうだ。だからただ単に「はい」と言うので

はなく、心を込めて、また感謝の気持ちも含めて返事をしなければならないのである。

「稲垣さーん」
「はいー」

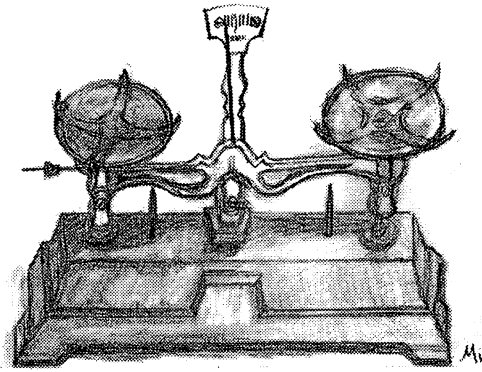
晴れのち晴れ 95

名前と返事
稲垣 恵雄



成績をつける仕事(上)

毎年、この時期は憂鬱(ゆううつ)である。教員として成績を出さなければいけないからだ。(私の大学では成績は八月中旬までに出すことになっている。)



大教室で何十人もの学生を相手にしている科目では、成績はまだつけやすい。試験をして、その点数順に成績を機械的につけられる。

難しいのは少人数の授業である。たとえば五、六人しか学生がいない授業もある。そういう授業はゼミ形式といって、私が一方的に話すのではなく、グループでの対話を通して行なわれる。教師と学生という関係であっても、なんとなく親近感も出てくる。しかし、成績をつけるときには、私は「共に学ぶ仲間」から突然「冷淡な評価者」にならなければならない。

やや細かい話になるが、私の大学では通常は最上位の「優」を、さらに二つにわけAとBにしている。Aは「抜群にできた」という評価である。BはAには及ばないけれども「とても良くできた」という評価である。「良」は「普通にできた」という評価でC。「可」は「合格ギリギリの線」という

好評のエッセイ

岡 知史著

知らされない
愛について

700円

ほんの少しの
神に近い部分

700円

ことでDという表記である。ところが、良くも悪くもない成績として、ある学生にCを出したら、その学生から抗議を受けてしまった。Cは四段階で下から二番目。不当に悪く評価されたと思いきや、なんだ。

トラブルを避けようとするれば、全員にAを出してしまえばいい。そうすれば、学生から「いい先生だ」という評判も得られる。誰も困りはしないのである。あまり大きな声では言えないが、自分のゼミを履修した

サロンひだまり

<サロン・あべの>が、20周年目を迎えました。それに関連して区内で活動しているサロンに、いろいろなお話をお伺いしました。その中で、サロン活動を続けていく上での苦労は、参加者への呼びかけと開催内容をどのようにするかなどがありました。その苦労も過ぎてみれば、楽しい思い出話になり、サロン活動を続けてきてよかったという感想が聞かれました。今、これらの言葉を思い出しながら、地域で始まった「サロンひだまり」活動に参加しています。この活動は、平成16年から企画された阿倍野区地域福祉行動計画策定委員会の話し合いの中から小さな地域でもサロン活動をという人たちと一緒に1年をかけて準備をしました。そして今年4月、ボランティアグループ「サロンひだまり」が、活動を開始しました。会場は阿倍野区の南のはずれに位置して、毎週水曜日にサロンを開いています。いつでも、だれでも参加していただける場所作りをと、毎回いろいろな企画を考えています。お母さんと幼児むけに「絵本をよもう」やビデオ観賞、大人向けに「からだをほぐしましょう」と軽い体操をしたり、「ほっと一息、お茶のみましょう」と気軽にお話する時間など、赤ちゃんからお年寄りまでくつろいで参加していただける時間を作っています。本当に身近な地域の人たちとの声かけも少なくなっていると感じる昨今です。この「サロンひだまり」を通していろいろな出会いを楽しみたいと思っています。(け)

……まきみみずきん

学生全員にAを出している教員もいる。学生たちは、そのことをよく知っている。だからこそ、私が出したCに憤慨する学生がいるのだろう。

私はゼミの成績を出すのに一日がかりのときもある。出欠状況の記録を点検し、提出された数編のレポートを読み直し、授業の記録を整理してから成績を出すのだから、それくらい時間がかかる。そんなゼミ

がいくつもあるから、結局、数日かかってしまう。そんなことをしても、半数の学生(つまり良い成績がつかなかった学生)は喜ばない。しかし全員にAを出すことにすれば、一分もかからないだろう。そうすれば私も楽だ。

どんなにいいかげんに成績をつけても、全員にAをつけるという方法なら、きっと誰からも苦情を言われることはない。教師

がいいかげんに「良い成績」をつけたと学生が抗議にきたという話は、いまだかつて聞いたことがない。怠けている学生なら感謝さえしてくれるかもしれない。

こういう「誰もが幸せになる」成績のつけかたを、実は私も、その意味を深く考えないで、以前には、やっていたのである。しかし、いまでは躊躇(ちゅうちょ)してしまう。その理由は次回に書きたいと思う。(知)

美智子のこんな話

岸田美智子

て6時30分から起き
て出かける準備をし
ていました。なのに、
7時に来る予定だっ
たヘルパーさんが体
調不良で急にキャン
セルになり、早朝のピ
ラまきには、参加出来ませんでした。あーあ
。おかげで、ゆつくり新聞を読みながら明
日の朝刊に、私達の集いのが掲載される
といいなあと思いつつ過ごしていました。

この日のプログラムが始まる10時30分
は、会場である大阪城公園の教育塔に、迷い
つつ着きました。

まず、障大連の事務局長で私達「あいえる
協会」の理事長でもある古谷朋也さんから開
会の挨拶がありました。続いて、大阪府庁に
要望書を提出するために代表団を送り出しま
した。そして、府議会から多数の議員が応援
にかけつけてくださり、アピールしていただ
きました。社民党の辻本清美衆議院議員も応
援にかけつけてくださいました。その後、

「難病連てんかん協会」などのいろいろな団
体から問題提起や集会アピールを提起してい
ただきました。今回の集いで用意されたうち
わを手に暑さにも負けずがんばりました。こ
の日の集合場所が、舗装されておらず車いす
では動きにくいという参加者の声があり、少
し気になりました。

最後に大阪府庁の周りを幾重にも囲み22
00人の参加者がいつせいに手をつなぎヒュ
ーマンチェーンが出来、シユプレヒコールを
連呼して、この集いを終えました。

マスコミの取材も多くあり、関西テレビは
ヘリコプターによる人間の鎖の空撮もありま
した。ほんとうに暑い中、参加者の皆さん、
お疲れさまでした。大阪府は今後、障害者自
立支援法の問題点をどのように改善していっ
てくれるのか、大阪府の役割が今問われてい
るのではないのでしょうか。

多くの障害者団体の反対を押し切り、この
4月からスタートした障害者自立支援法は、
いよいよ10月から1割の自己負担に加え、そ
のサービス内容も新しい体系に変わっていこ
うとしています。もうすでに自己負担額が大
きいので作業所に行くのをあきらめようかと
いう現実もあると聞いています。そんな中
で、大阪の集いパートVが予想参加者を大き
く上回る2200人もの参加で実施されまし
た。

私はこの日、府庁前で、朝8時30分からの
ピラまき行動にも参加するために、はりきつ

ひとつずつ
ひとつだけの世界 15

ゆかたを
ワンピースに



池内沙織



<サロン・あべの>5月の出会い「糸あそび-消臭糸でボンボン玉作り-」では、いろいろあ

りがとうございました。3時間
あまりの集いでしたが、この短
い間に、自分で作ること、完成
させた満足感、1人でなくお互
い助け合いともに喜べるなど、
みなさんからたくさんプレゼン
トをいただき、感動しました。
帰る電車で窓の外をなんとなく
眺めていると、その景色は先程
の<サロン・あべの>になり、
眼の奥が熱くなる自分になって
いました。また機会がありましたら、
よろしく願います。
今、78歳の方に頼まれて、白
地に藍色のゆかたを、ワンピース
にリフォームしています。ふ
しぎと暑い日本の夏にはこのカ
ラーのコントラストが涼しさ、
癒しを感じます。そこに少しの
赤や黄色が加わるとまたステキ

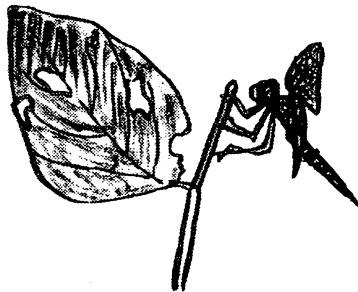
です。年齢、男女を問わず似合
います。
20年以上も前に作られて、長
い間タンスの中で眠っていたこ
のゆかたの糸を切り解きなが
ら、その縫われたひと針ひと針
の温もりが伝わって来るのを感じ
ます。そして心の片方で、無
惨にもはさみを入れてごめんな
さい、と謝りながら。
50歳のとき新しいこのゆかた
に袖を通されたときの感動はい
かがだったのでしょ。どこに
お出かけになったのでしょ
か。思いを馳せています。
78歳の今、このワンピースに
袖を通されたときの新しい喜び
を思いながら、かぎ編みのレー
ス、白のレースなどをあしらっ
て、仕上げに入っています。

ゆい・まある (沖縄の方言)
つながり・助け合い・お互いさま



一問い合わせ先：手沙織工房☆池内沙織一
〒567-0048茨木市北春日丘4-9-24井上が101
TEL & FAX 072-627-8611 携帯 090-8129-9115
E-mail:tesagurikobo@hcn.zaq.ne.jp

メールもいいけど、
手紙もネ。



サロンの
一筆箋

1冊100枚綴 ¥150-



SALOON

関西ニューズ

9月はどこのサロンの、どのテーマがお気に入りですか。いい出会いしませんか。

■「サロン淀川」9月の出会い

日時：9月2日(土)午後12時～5時
内容：区民祭りにいらっしゃい
たこ焼きコーナーや、ふれ愛の場で手づくりのおもちや。サロンの仲間と一緒に楽しみませんか。

会場：淀川区民センターグランド
淀川区社協ふれあいコーナー
[大阪市淀川区野中南2-15]
問い合わせ先：淀川区社協(ボランティア・ビューロー) ☎06-6394-2900
E-mail: sorajii@iris.eonet.ne.jp

■「サロン・にしよど」9月の出会い

日時：9月23日(土)
内容：未定
会場：未定
問い合わせ先：中本 ☎090-9864-9678

■「サロン・にし」9月の出会い

日時：9月9日(土)午後2時～4時
内容：手話を学ぼう! 基礎編
場所：西区在宅サービスセンター第一会議室
大阪市西区新町4-5-14
☎06-6539-8075

会費：なし
問い合わせ先：関口 ☎090-4281-5641

■「ウイズ東淀川」9月の出会い

日時：9月10日(日)午後1時30分～4時
内容：未定
ゲスト：未定
場所：未定
会費：なし
連絡先：鈴木昭二
☎・Fax 06-6340-3082

■「サロン北」9月の出会い

日時：9月16日(土)
午後1時30分(開場) 2時(開演)
内容：「心の支えは人との出会い」の講演とギター演奏
ゲスト：鈴木昭二氏(「ウイズ東淀川」代表)
参加費：無料
場所：障害者福祉作業センター「たけのこ」
大阪市北区本庄東2-6-11宝来堂ビル1階本庄川崎公園北側、緑色のテントのあるビル
問い合わせ先：サロン北・事務局・担当=谷口政美
☎06-6372-8074
Fax 06-6372-8867

■「サロンいたみ」9月の出会いはお休みです

サロンの 絵はがき

5枚1組 180円

<サロン・あべの>VOL.242 発行：平成18(2006)年8月19日 定価¥100
編集人：<サロン・あべの>運営委員会 表題：中西利香・筆 文中イラスト：石田美禰子
事務局：〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 富田慶子方<サロン・あべの>
TEL・FAX 06-6691-1028 郵便振替口座：サロン・あべの 00950-9-26941
印刷：セルフ社 〒546-0044 東住吉区北田辺町4-23-2 ミスターDビル2F TEL06-6719-8212
ホームページ：http://pweb.sophia.ac.jp/~t-oka/salon/ 「サロン あべの」でも検索できます